

MONTHLY MAGAZINE

おかげさまで
since 1958

61年

財界九州 12

Since 1958. 九州・沖縄の「時流」を知る総合情報誌

No.1131

業界
FOCUS

介護

「マンパワー産業」の危うい現実
試される「地方発モデル」の形成

TOP INTERVIEW
NTTドコモ 執行役員九州支社長 山崎拓氏
「人とモノがネットワークでつながる時代に。
5Gで地域や企業の課題解決を促す」



テーマレポート

回顧 2018

エリアレポート

福岡	天神「南北」にも広がる再開発案件
北九州	環境から「SDGs都市」へ再構築
筑後	JR駅前「第二街区再開発」が始動
佐賀	「西友駐車場跡」は市主導で開発へ
長崎	五島への足「五島産業汽船」破たん
佐世保	陸・海で「地方交通リスク」顕在化

熊本	「クルーズ船拠点」へ前進する八代
大分	県南部圏の「公共交通網」を再構築
宮崎	「安心して産めるまち」目指す都城
鹿児島	「本格焼酎」復権へ海外プロモ加速
沖縄	「門前町」再生に活路求める普天間

<http://www.kyushu01.com>

RACと崇城大 パイロット養成で連携

沖縄の離島を結ぶ琉球エアークommuniter（RAC、那覇市）は、崇城大（熊本市）とパイロットの養成で連携する協定を結んだと発表した。RACが沖縄県内の大学生をパイロット候補生として毎年2人程度を選抜。崇城大が研修生



として受け入れ、パイロット資格の取得を後押しする。RACは訓練や生活費など一人当たり約2000万円の奨学金制度を創設し、同社での一定期間の勤務を条件に返済を全額免除する。

崇城大にはパイロット養成課程があり、訓練機14機、模擬操縦装置（シミュレーター）4基を保有。

熊本空港に隣接する空港キャンパスなどでパイロットに必要な各種ライセンス取得のための訓練を実施している。RACは那覇市を中心に奄美大島から与那国島までの島々を結ぶ12路線で毎日40便以上を運航。パイロットの安定的な確保のため大学と連携した支援策を用意し、離島便の維持を図る。